【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	神奈川

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	川崎市立野川中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	７	６	６	２	２１	３７
生徒数	２４４	２３４	２１７	３	６９８	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

生徒一人一人の学習意欲を高め、学力の向上をめざした指導法の研究

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

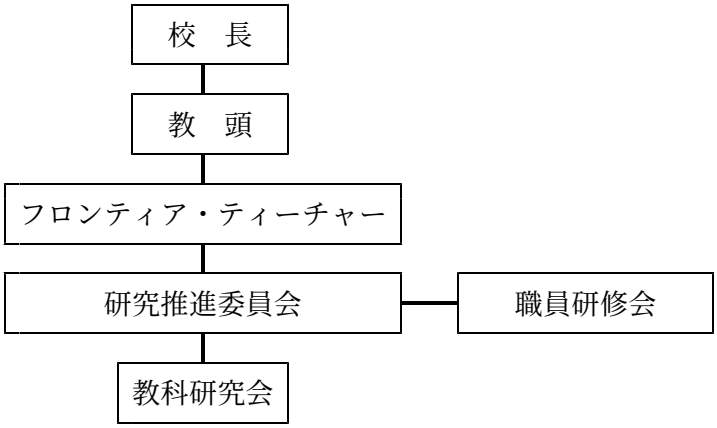
・１年生・英語
　昨年度からの研究成果と生徒の実態調査の結果をもとに、研究に取り組むため。
・２年生・英語
　昨年度からの研究成果と生徒の実態調査の結果をもとに、実施学年の枠を広げ、研究に取り組むため。
・３年生・数学
　進路の選択を前にして、学力の向上と格差の是正を図るため。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 　効果的な少人数制指導の進め方 ○　研究の見通し 　少人数制による授業を積極的に取り入れることにより、よりきめ細かな指導の充実を図り、生徒自身の学習意欲を高め、学力の向上をめざしたい。 ○　研究の内容・方法 　少人数制による授業を実践し、課題や問題点を見いだし、その解決策を模索する。生徒一人ひとりの実態の把握に努め、個に応じた指導法の研究を推進する。

平成16年度	○　テーマ 　未　定 ○　研究の見通し 　15年度の研究をふまえて検討したい。 ○　研究の内容・方法 　15年度の成果と反省から、望ましい学習集団の編成や指導教材、評価方法について、検証していきたい。

(3)　研究推進体制



○研究推進委員会　…　隔月で開催。校長、教頭、教務、英語科３名、数学科３名で構成。
教科研究会の協議をふまえて実施。
○職員研修会　…　学期１回程度開催。全職員参加。
○教科研究会　…　毎月実施（英語科　６名、数学科　５名）。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

【英語科のアンケート結果から】　平成１５年１２月実施

＊従来の人数の授業と比較した場合

	数学科	英語科
授業に集中しやすい	９０％	７４％
発言しやすい	６５％	７２％
先生に質問しやすい	６７％	７６％

＊学習集団の編成方法について

	習熟度別	出席番号順
１年生	６０％	３０％
２年生	５４％	４０％
保護者	７３％	２４％

＊少人数制授業について

	賛成	反対
保護者	１００％	０％

英語科で行った、このアンケートの結果から、これまでの実践が生徒を少しずつ変容させ、少人数制の授業が、生徒にとって参加しやすい形態であることがわかる。発言や発表が多くなっていることは、生徒の授業への積極的な参加を示すものである。教員の目から見て、一斉授業では、授業に積極的に参加できないでいる生徒が、積極的に取り組もうとする意欲を示すようになってきている。本校のねらいでもある「学習意欲の向上」が、徐々にではあるが、見られるようになってきていると言える。

また、別のアンケートの結果から、保護者も生徒も、少人数制授業の実施に賛

成していることがわかる。いまも、学習集団の編成方法については意見が分かれているが、習熟度別の学習集団編成への期待も感じ取ることができる。
　少人数制授業を実施することで、担当教員間のより細かな打合せが必要となってきている。特に、評価に関しては、客観性が求められていることもあり、生徒にもわかりやすい評価にするよう、評価基準について話し合いを繰り返し行うことができた。評価についての検討は、直接その指導方法や諸活動のねらいの設定などと結びつくことが多く、より均一な学習効果を上げる基盤作りにもなっていると考える。
　このように教員間での話し合いが増えたことは、一つの成果と言え、ある単元の指導や活動についてさまざまな意見を交換することができ、よい研修の場となっている。さらに、英語科の場合、一人の生徒の英語の力について、複数の教員で意見を交換することができ、生徒へのより良いフィードバックにつながっていくと考えている。

　数学科で実施したアンケート結果からは、本校の生徒は、「数学が好きである」、「将来、数学を使う仕事がしたい」については、全国平均とさほど変わりない回答があるが、授業中、「なんとかして問題を解こうとしてがんばっている」、「友達に教えたり教わったりする機会が増えた」という回答では、かなり高い傾向を示している。このような傾向を本校の特徴と考え、さらに「学習意欲を高める」工夫をしていきたいと考える。
　また、今年度、少人数を実施した３年生については、次の点では、１・２年生に比べ、顕著に高い回答を得ることができた。
　「発言が増えた」、「落ち着いて学習できるようになった」、「先生から丁寧に見られている感じがする」、「先生から個別に教えてもらえる機会が増えた」、「前に出て発表する機会が増えた」、「授業の進むスピードが自分に合っている」、「数学の時間が以前よりも楽しくなってきた」など。

　少人数制の授業を行うことによって、このような効果が出てきたことを教員だけでなく、生徒も実感しているようである。今後、これらの意欲をさらに生かす方向で、研究主題にせまる有効な指導法を研究していきたい。

２．今後の課題

　アンケートの結果から読みとれるように、約４分の１の生徒が「授業がわからない」、「授業に集中できない」、「発言しにくい」、「先生に質問しにくい」と答えている。このような生徒を少なくしていくことが大きな課題であると考える。そのためには、教員が、一人一人の生徒の特性を的確に把握し、きめ細かく、適切な指導や助言を与えられるような工夫が必要である。

　次に、打合せの時間が増えた一方で、お互いの授業を見る機会が少なく、実際にはどのように授業が進めらているのか、お互いにわからないという問題もある。コースの変更や集団編成の変更などで担当教員が交替し、指導法などが変わり、戸惑いを感じている生徒もいる。評価方法については、研究が進んではいるものの、指導方法の面では担当者によりさまざまである。少人数制授業ならではの授業展開を工夫し、より効果的な指導方法や評価方法を検討していく必要がある。

　また、学習集団の編成方法という課題もある。現在、機械的に分ける方法や習熟度別で分ける方法が考えられるが、数学では、生徒同士の教え合いによる効果を研究の柱の一つとしており、今後も、編成方法については、それぞれの教科で検討を重ねる必要がある。
　さらに、英語科・数学科だけでなく、全教科において、少人数制をふまえた指導法や評価方法を普及していくこと、そのためには、職員数、施設・設備、教材をどう確保するかなどの問題をさらに検討する必要もある。

　最後に、学力が向上したことを判断するための方法についても課題が残る。アンケートなどで、情意面での向上は見とることができるが、実際にどの程度学習指導要領が示す「基礎・基本」が身に付いているかを判断する方法を検討していく必要もある。

多くの課題が残っているが、一人一人の生徒の学習意欲の向上という目標を達成するために、さらに研究を深めていきたい。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

①　授業中の小テスト、および校内の定期テスト
　定期テストは５・６・１０・１１・２月実施。小テストは随時。

②　川崎市学習診断テスト
　１１月１９日全市一斉に実施。

＊　いずれも、学習の定着度などの把握および分析に利用するため。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　中間報告会　公開授業研究会として開催
・日時　　平成１６年１月１３日（火）
・場所　　川崎市立野川中学校
・テーマ　生徒一人一人の学習意欲を高め、学力の向上をめざした指導法の研究
・対象　　川崎市内中学校および宮前区内小学校の教職員
・目的　　研究推進の中心教科（英語・数学）の授業研究

○　研究成果普及のためのＨＰ作成、パンフレット作成などの実績（学校としての創意工夫を含む）及び今後の予定
・未　定

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑　１５年度からの新規校　　□　１４年度からの継続校

【学校規模】　□　３学級以下　□　４～６学級
□　７～９学級　□　１０～１２学級
□　１３～１５学級　☑　１６学級以上

【指導体制】　☑　少人数指導　□　Ｔ．Ｔによる指導
□　その他

【研究教科】　□　国語　□　社会　☑　数学　□　理科
☑　外国語　□　音楽　□　美術　□　技術・家庭
□　保健体育　□　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑　有　　□　無